

福津市地域担当職員からの上西郷郷づくりレポート



インタビューアー
地域研修職員

～ インタビューを受けた人
副会長 木村 良介
(環境景観部会担当)

●郷づくりの活動に参加するようになったきっかけは何ですか。

長年警察官として勤め上げ、退職した後、今度は人の癒しになるようなことに取り組みたいと思ったこと、自分が動くことで地域のため・子どもたちのために何かしたいと思ったことが郷づくりの活動に関わるようになったきっかけです。

活動に取り組むなかで、花壇に花植えをした際、「花壇きれいね」と言ってくれる人や写真を撮る人がいて、自分自身にとっても奉仕活動が癒しに感じました。

いただいた感謝の言葉がやりがいになっている部分も大きく、満足しています。

●これまで郷づくりの活動として行ってきた活動は、どのようなものがありますか。

上西郷小学校の運動会での挨拶や花壇の花植え、上西郷小学校の児童が西郷川で生物観察を行うための事前の草刈りなどを行っています。

また、今年度からは広報紙の作成にも力を入れています。

防災訓練の際には、過去実際に災害が起こった際の写真を載せ、インパクトのある誌面になるように工夫しました。

●郷づくりの活動を行うことに対して、今後どのような課題があると思いますか。

郷づくりの活動は、いわばボランティアのようなものであるため、「活動への理解」が難しいところだと感じています。また、地域には、いろいろな人がいて、それぞれ得意なことは異なります。

上西郷郷づくりにいる人財を、どのように活用していくことができるかについても、課題の一つだと感じています。

●今後郷づくりで行いたい活動、地域の方に、こんな風に活動に参加してほしいといった展望がありましたらお教えてください。

まずは私たちの活動に対して、地域住民の皆様には理解をしていただく必要があると思います。

活動内容を知らせるために広報活動に力を入れ、多くの方が郷づくり活動について興味を持ち、理解をしていただけるように努力したいと考えています。

環境美化活動の実施にあたって、福間東中学校にボランティアに来ませんかと声をかけたところ、数名の生徒が参加することになりました。

自然豊かで、旧来の住宅が多く、地域内のつながりが強いこの地域では、活動に参加しながら子どもが育ち、子どもたちの家族も関わっていけるように、子どもたちの地域活動への参加を手厚くしていきたいです。

地域住民が直接顔を合わせることが大切だと感じています。

その繋がりが、災害時にも役立つのではないかと考えていますので、郷づくりの活動が、地域住民が直接顔を合わせる良いきっかけとなれば良いなと思っています。

「楽しく」が活動のキーワード



上西郷郷づくりの活動を年4回発行の広報誌「郷郷タイムズ」でお伝えしています。

環境景観部会、防犯防災部会、地域福祉部会、子育て支援部会と、郷づくり本部がワンチームで地域貢献活動を続けています。

研修職員の感想

- 郷づくりの活動は幅広くイベントも多いなか、労力を惜しまず、すべてボランティアで参加されていることに驚き、地域への想いに感銘を受けました。
- 顔を合わせ、イベントや災害時に力を出し合って繋がれる地域づくりの大切さ、そのために奉仕の精神で活動されている木村さんの思いが伝わってきました。
子どもたちを中心に、郷づくり活動への理解と参加が広まってほしいです。
- インタビューを行うことで、地域の繋がりの大切さを改めて学ぶことができました。
地域に繋がりができ、地域が活性化していくことが、最終的には市の魅力になっていくと思います。
今回学んだことを意識しながら、日々の業務に取り組んでいきたいです。
- 実際に活動を行うかたから直接お話を伺うことで、活動に対する思いをより深く知ることができました。
また、花壇の清掃だけにとどまらず、様々なボランティア活動によって地域が支えられているのだと実感しました。



西郷川美化事業で活動中の木村副会長



西郷川沿いの花壇でボランティア活動をした福間東中学校の生徒さんと環境景観部会の皆さん